

経験から学んだこと 第2回

「LDR」って??

■初めての産婦人科

有料老人ホームの運営などに関わりながら、特別養護老人ホームや老人保健施設、病院や保育園の家具、什器、備品のトータルコーディネートによる一括納品事業にも携わっておりました。

20年以上前になりますが、東北地方のT市で産婦人科医院の新規開業が予定され、家具備品等の一括提案と納品を請け負いました。

産婦人科医院の案件は初めてでしたし、医院の中を覗いた経験など有りません。しかし、全く何も知らずに家具や備品の提案をする訳にもいかず、どこかの医院を見学できないものかと知人に声を掛けておりましたところ、埼玉県のM市に先進的な医院が有るとの情報が入り、早速見学させて頂くことになりました。

最寄り駅から徒歩で10分程度の立地で、今では珍しくはありませんが、「〇△〇レディースクリニック」という名称は新鮮で、如何にも先進的であるという印象でした。

若い女性好みのパステルカラーで統一された壁面や天井もおしゃれで、待合いのソファなども明るくセンスの良さを感じました。

様々なセクションを見学させて頂いていると、ある部屋の扉の上に「LDR」という名称板が掲げられていましたので、とっさに「そうかぁ、出産後に家族だけでお祝いし、食事が出来るようにリビング(L) ダイニング(D) ルーム(R) が有るんだ!!」、「これは先進的だ、是非今回の提案に採り入れよう」と思いました。案内をして頂いた事務長さんにそのような感想をお伝えしようと思ったその時、事務長さんが、「ここは「LDR」です」と言ってドアを開けてくれました。そこはおしゃれなベッドが置いてある正に居室ではありましたが、小生が想像したリビング・ダイニング・ルームではありませんでした。そしてこのLDRの説明が始まりました。どうやら陣痛から出産、産後の体力回復までが一つの部屋で出来るとのことで、欧米では既に一般化されているとのことでした。それにしても何でリビング・ダイニング・ルームなんだろう?と

その後、どのようなセクションを見学したか全く記憶が有りません。ずっと「LDR???’そればかり考えていました。

事務長さんに丁寧なお礼を申し上げ、最寄り駅へ戻る道すがら、一緒に見学した仲間に訊いて誰も知らないと言います。今なら検索すれば直ぐに判るのですが、当時は何も調べる手段が有りません。

ある日、病院関係の専門誌を見ていましたら、米国の設計会社がデザインした産院の記事と写真が掲載されており、そこに書かれた「・・・のLDR・・・」という表現が目飛び込んで来ました。「アッ、これだ！！」と記事を読みましたら、何と「L」は「Labor（陣痛）」「D」は「Delivery（出産）」「R」は「Recovery（回復）」だそうです。

正に、事務長さんが説明された通り、陣痛から出産、産後の体力回復まで、妊婦が移動することなく過ごせる部屋、ということでした。

とにかく、「さすがにリビング・ダイニング・ルームが有るんですね！！」などと訊かなくて良かった、大恥をかくところだった、と今でもそのシーンを思い出すと冷や汗をかいてしまいます。

それから1か月ほど後、東北T市の産婦人科の院長さんに、「やはり『LDR』は絶対に必要ですね！」と、したり顔で話す自分がおりました（笑）。

以 上
Y O 生